

「紺屋町番屋」は、1891年に盛岡消防よ組の番屋として建てられ、1913年に消防組第四部の事務所として改築されたものが現在の建物といわれています。薄灰色の外壁と赤い屋根に望楼を備えた2階建ての番屋は、大正ロマン漂う木造洋風建築の建物です。1977年には消防施設の変遷を知る貴重な建物として、盛岡市の「保存建造物」に指定され、古い町並みが残る紺屋町のシンボル的な存在となっています。



▲紺屋町番屋

大正ロマン漂う「紺屋町番屋」

今回のレポート先
紺屋町番屋
リノベーションプロジェクト
岩手県盛岡市紺屋町



とうほく 元気 レポート

行政と民間の有志が
ひとつになって灯した
新しい町づくりの火

盛岡市の中心部に位置する「紺屋町（こんやちょう）」。城下町の面影が残る町並みの一角に、今から約120年前に建設された「紺屋町番屋」があります。この番屋を市民や観光客が集える場所として活用したいとの思いから、行政職員と民間事業者が、ともにアイデアを出し合い、遊休している公共の建物を利用し地域活性化を図ろうと「いわてリノベーションスタディ」が行われました。「紺屋町番屋」を活用したプロジェクトの概要について、メンバーの方々にお話しを伺いました。

灯すプロジェクトが始動

岩手県の「空き家活用人材育成事業」として、昨年11月に開催された「いわてリノベーションスタディ」。ここで提案されたのが「紺屋町番屋」の活用でした。国や県、盛岡市の職員、地元経営者、県内外の民間事業者らで組織した「紺屋町番屋リノベーションプロジェクト実行委員会」が中心となり、「地域に賑わいの火を灯し、紺屋町の附加価値を高めていく」をテーマに社会実験がスタートしました。



▲「いわてリノベーションスタディ」の様子



官民連携で「紺屋町番屋」を身近な建物に

社会実験イベントとして、今年の2月3、4日に「紺屋町ひぶせ座プロジェクト」が開催されました。イベントは、紺屋町界隈でかつて盛んだつた大衆芸能の演芸場を、町を火災から守ってきた番屋に「ひぶせ座」として再現し、落語や盛岡芸妓(げいぎ)の歌や踊りなどの郷土芸能が繰り広げられ、連日、満員札止めという盛況ぶりでした。プロジェクトメンバーからは、「まちが生き返ったと感じた」「近くにあって遠いといふ公共の建物が身近になつたことが好評だった」などの感想が寄せられ、「これからも面白いことが起きそうだ」という期待を感じてもらつたことが最大の効果」と実行委の有坂民夫事務局長は話します。



「紺屋町ひぶせ座プロジェクト」の風景



「紺屋町ひぶせ座プロジェクト」の風景



「近くにあって遠いといふ公共の建物が身近になつたことが好評だった」などの感想が寄せられ、「これからも面白いことが起きそうだ」という期待を感じてもらつたことが最大の効果」と実行委の有坂民夫事務局長は話します。

歴史や文化を目や肌で感じられる町

「町を歩けば、手が触れられる本物の歴史資産に出会い、時の流れや受け継がれてきた文化を実感することができる」といわれるよう、紺屋町界隈は、歴史や文化が凝縮された地域です。江戸時代に盛岡城下を通る奥州街道に沿って発展した町人の町で、江戸時代を偲ぶ町並みや明治の洋風建築物がそこかしこに残っています。

盛岡市は、永い歴史と伝統にはぐくまれた歴史的環境と近代的都市機能とが調和する魅力ある町づくりを目指しており、由緒・由来のある建造物や都市景観上保全が必要な歴史的建造物を「保存建造物」として指定しています。現在、洋風建造物7件、和風建造物8件、寺社建築物4件、土蔵3件、その他1件の計23件が指定されています。

伝統の技術が生む品々も町の景観に

紺屋町という町名は、中津川を利用した紺屋（染物屋）が多く集まっていたことが由来です。その一角にある「草紫堂」では、現在も貴重な「南部紫根染」を守り続けています。ムラサキとアカネの草花を使った優美で味わい深い色合いと、きめ細やかな手技による「絞り柄」が生む、やさしい風合の紫根染めは人々の心を和めます。

また、草紫堂のほど近くには、約250年の歴史を紡ぐ「菊の司酒造」があります。杉玉を吊るした白壁の酒蔵が、落ち着いた町並みに一層の趣を添えています。中津川の伏流水で造られる日本酒は絶品で、地元でも人気の高い商品となっています。



▲250年の歴史菊の司酒造の蔵



◆「草紫堂」と現在も貴重な「南部紫根染」



▲人気の高い商品の数々



◆旧第九銀行(現もりおか啄木・賀治青春館)



▲旧盛岡銀行(現岩手銀行中ノ橋支店)



▲原敬の生家(大正時代に平民宰相として活躍した原敬の生家)

「もりおか中津川まち歩きスタンプラリー2017」開催

紺屋町をはじめ中津川周辺のお店屋さんや施設を巡ってスタンプを集めるまち歩きイベントです。7回目となる今回はエリアを拡大! 過去最多のスタンプが登場します。新緑の季節、スタンプを集めながらこの界隈を楽しく散策しませんか!

(主催:紺屋町かいわい街並み協議会)



[開催期間]2017年4月29日(土)~5月21日(日)

[参加費]スタンプブック代 300円 <限定1000冊>

- 参加するにはスタンプブックが必要になります
- スタンプブックは参加店舗の一部で4月15日(土)より販売いたします

[基本ルール]

- ①スタンプブックを持って参加店を巡り、各店に設置してある「お店スタンプ」を集めます。
- ②お店スタンプは買物に関係なく押すことができます
- ③お店スタンプをたくさん集めてゴールに行くと賞品がもらえます

[賞品]

- | | | |
|------|---------------------|-----------------------------|
| ●参加賞 | お店スタンプ10個 | 「紺スタ」ポストカードセット |
| ●銅賞 | お店スタンプ20個 | 抽選で100名に当たる「紺スタふきん応募券」 |
| ●銀賞 | お店スタンプ40個 | 抽選で10名に当たる「紺スタ福袋(3千円相当)応募券」 |
| ●金賞 | お店スタンプ57個+テーマスタンプ5個 | 特大コンプリートスタンプ |



▲盛岡市内をとうとうと流れる「北上川」と秀麗な「岩手山」

紺屋町番屋での社会実験は、行政と民間の連携による「新たな地域活性化のスタート」ともいえます。今回の「紺屋町ひぶせ座プロジェクト」の成功で、遊休不動産を活用したリノベーションの動きが、さらに活発になることが期待されます。その一方で、魅力的な遊休不動産はたくさんあります。ですが、条例や規制など活用に至るまでにクリアする課題が多いのも現実です。有坂さんは、「この取り組みが波及していく兆しは感じました。今後は、自分も関わりたいという人がたくさん現われるのではないかと思います。地域のためにも行政とともに協力して事業収益性のあるプロジェクトに取り組みたい」と力強く話してくれました。

挑戦への新たなスタートが始まる